



今日から始める
自然観察

夏だっ♪ セミのくらし再発見!



こくほまさゆき
小久保雅之
NACS-J自然観察
指導員東京連絡会

セミは私たちにとって最も身近な昆虫のひとつ。夏、長い間地中で暮らしていた幼虫が地上に出てきて成虫になり、メスは卵を産みます。今回は羽化の観察や、幼虫が脱いだ後の殻の調べ方など、セミのおすすめ観察ポイントをご紹介します。



セミの羽化は小さな子どもでも観察しやすい。(写真:高野文)



幼虫が地面を歩いていることがあるので踏まないように注意しよう。いったん羽化場所を決めて止まったセミには、絶対触らないこと。蚊対策はしっかりと。



羽化に注目

羽化の観察に適した場所は
どこ?

- ① 抜け殻がいっぱいあるところ
- ② 地面にセミの幼虫が出て来た穴が空いているところ
- ③ 高木の下にツツジやアジサイなどの低木があるところ
(子どもたちでも見やすいところで羽化してくれる)



アブラゼミやミンミンゼミの穴の大きさは直径1cm前後。
穴から外をうかがう幼虫も観察してみよう!(写真:荻窪奈緒)

羽化の観察

セミの羽化は夏の夜、19〜21時ごろ、子どもたちも起きていられる時間に観察することができます。まだ少し明るい18時ごろに集合しましょう。日が沈んで暗くなってくると、土の中で暮らしていた幼虫が外の様子をうかがい、地表に出てきます。地面を歩き、木に登る幼虫の姿を観察した後、いよいよ羽化の観察です。幼虫から成虫への劇的な変化、神秘的な美しさをじっくり観察して、楽しみましょう。

東京で一番多いアブラゼミの羽化のピークは8月の下旬です。この時期にはニイニゼミの羽化のピークは過ぎますが、ミンミンゼミの羽化も観察できますし、ツクツクボウシの羽化も始まっています。関東より西の太平洋側で多いクマゼミは、もう少し早い時期がピークになります。

セミは羽化する場所が決まって動かなくなると、幼虫の背中が割れ、緑色の体が見えてきます。羽化の始まりです。頭部、胸部、脚が出て、腹部の先だけ殻の中に残ししばらく反り返った状態で時間を要します。その間に脚にしつかり力が入るようになります。上



抜け殻に注目

セミの抜け殻を調べたら何が分かる？

①場所を決めて調べると

どんな種類のセミが何匹その場所で羽化したのかを知ることができる！

②いろいろな場所で調べると

どのセミがどういう場所を好むか、環境の違いを比べることができる！

③時期を変えて調べると

例えば7月下旬、8月上旬、8月下旬と時期をずらして3回調べると、どのセミが早く羽化するか、オスとメスでどちらが早く羽化するかが分かる！

④毎年調べると

その場所での抜け殻の種類や数の変化が分かる！

ある範囲の場所の抜け殻をすべて集めて種類を見分け、数を数えてみよう。
調べ方によって、違う発見がある。



セミの抜け殻から、種類が分かる検索表が
下記のウェブサイトで見られるよ！

NACS-Jウェブサイト

<http://www.nacsj.or.jp/ss2007/>



産卵に注目

セミはどんなところに卵を産む？

セミは通常、立ち木の枯れ枝や樹皮などに卵を産むが、公園の樹木の添え木や、木の板を使った名札にも産卵することがある。産卵痕は、そういう場所が探しやすい。もしそういう場所にセミが止まっていたら、おしりをピクピクさせて、木に産卵管を差し込んでいないか、そっと観察してみよう。ニイニイゼミの卵はその年の秋に、アブラゼミの卵は翌年の梅雨の時期に、孵化する。



看板に産卵中のニイニイゼミ



樹木の添え木についたセミの産卵痕
(写真：田邊貞幸)

QUIZ

孵化したセミの幼虫は、
地中で暮らすために
地面に降りる。
どうやって降りる？

- ① 木の幹を歩いて降りる
- ② 飛んでいく
- ③ 木から落ちる

▶ 答えは27ページ

と楽しくなります。

セミの抜け殻は、その場所に1匹のセミが羽化した証拠です。小学校の低学年でも抜け殻で種類を見分けることができます。夏休みの宿題にもってこい！みんなで調査をしてみると、もっと楽しくなります。

抜け殻を調べよう！

手く自分の抜け殻につかまって、腹部の先端が殻から抜けるときが一番盛り上がる瞬間です。縮まっていた羽が一気に伸び、セミの形に変化していきます。
セミの幼虫は動きも遅く、栄養はたっぷりなので、ほかの生きものが餌として狙っています。ヒキガエル、カラスなどは夕方になるとセミの幼虫が地面から出てくるのを待っています。羽化中にも、ムカデ、スズメバチなどに襲われることもあります。